

福岡県の主な農産物の生産状況

令和元年 12 月 2 日現在
(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

11 月 21 日現在の収穫進捗状況は 68% (前年同期 49%) です。少雨のため収穫作業は順調に進んでおり、12 月上旬には終了の見込みです。

播種の遅れや 8 月中旬～9 月上旬の長雨・日照不足により莢数が少なく、9 月下旬からの日照不足や台風 17 号の影響で粒の充実が不足し、**収量は前年より少ないです**。大豆株及びほ場が乾いたら速やかに収穫しましょう。

◇麦類◇

11 月 14 日現在の播種進捗状況は 2.3% (前年同期 2.1%) で、作業は順調に進んでいます。播種の最盛期は 11 月下旬で、大豆後の作型では 12 月中旬頃までかかる見込みです。

適度な土壌水分となったら速やかに播種しましょう。12 月中旬以降に播種する場合には、播種量を増やします。雑草の発生が早いため、対策を徹底しましょう。

◇冬春ナス◇

11 月上旬まで日照時間が長く、高温で推移したため、生育は良好で出荷量は昨年より多**い**です。増収により樹勢低下が見られたものの夜温低下も影響して樹勢は回復しています。

現在、着果は少ないですが、花数は増加傾向にあるため、今後、出荷量は増加する見込みです。厳寒期は日射量が少ないため、日中に内張りカーテンを巻き上げ、側枝が混み合わないよう芽の整理を行うとともに、こまめに摘葉し、新芽や果実への採光性を高めましょう。日中の炭酸ガス濃度は 400ppm を維持し、日中加温 (10:00～16:00、20℃) を組合せて厳寒期の生育促進を図ります。

高温によりコナジラミ類の発生が多いです。成り疲れによるすす斑病、すすかび病やうどんこ病が散見されます。施設内が多湿条件にならないよう管理するとともに、病害対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

現在、早生温州の出荷終盤です。早生温州は、糖度および着色が平年並みに回復し、出荷量が前年並み～やや多いです。普通温州は、糖度が平年並みで減酸がやや早いです。果実分析に基づいた適期収穫を厳守し、良食味果実の出荷に努めましょう。

秋季の高温傾向の影響で、果実肥大が進んでおり、今後、浮皮果や腐敗果の発生が懸念されます。収穫前の腐敗防止対策を徹底し、収穫時には、果実にハサミ傷等を付けないよう注意しましょう。

◇イチジク◇

本年度の出荷はほぼ終了しました。10 月以降は、高温と適度の降雨の影響で果実肥大が良好となり、順調に出荷されました。11 月中旬時点の出荷量は、前年、過去 5 年平均並みとなりました。

収穫終了後は残果の除去や落葉処理を速やかに行い、樹勢が低下している園では客土や堆肥等を投入して樹勢の維持・回復を図りましょう。

◇施設ギク◇

「精の一世」等の夏秋ギクは、11 月下旬までの出荷です。「神馬」等の秋ギクの出荷は、11 月中旬から徐々に増加しています。

年末出荷作型の生育は、定植以降日照時間が多く、高温で推移したため、前進傾向です。

施設栽培では、多湿や低温条件が続くと白さび病が発生しやすくなるので、昼間の換気や夜間温度（12～13℃）の維持を図りましょう。重油消費量の削減を図るため、ハウスの気密性を高める等、保温性向上に努めましょう。

◇牛◇

和牛去勢の枝肉単価は、前年比 90%、過去 5 年平均比 93%と低下しています。一方、省令価格（交雑種相当）は、前年比 99%、過去 5 年平均では 103%と同一水準で、消費者の低価格志向を反映しています。

病気の発生を予防するための農場衛生管理、サシバエ等の害虫対策を徹底しましょう。